

CNCP アワード 2017—受賞式典より—



シビルNPO連携プラットフォームは、10月3日に東京都新宿区の土木学会講堂で、ソーシャルビジネスの普及を目的として社会的課題の解決を図る優れた事業を表彰する「CNCPアワード2017」の受賞式典を開きました。優れたソーシャルビジネスを展開している事業が対象の「ベスト・プラクティス部門」の優秀賞は中央大学理工学研究所平野廣和研究室の「既存貯水槽の耐震性向上のための制震装置の開発」と飛島建設・オリエンタルコンサルタンツ特定事業共同企業体の「農業用水路を活用した小水力発電事業の建設・運営」、優れた事業企画が対象の「ベスト・アイデア部門」の最優秀賞はミカミの「リノベーションによる『子育てママのコミュニティ』づくり」、奨励賞はまちみとらボの「新市民会館周辺公園化構想」で、各

団体の代表者が表彰され、プレゼンテーションを行いました。

冒頭、あいさつした山本卓朗CNCP代表理事は「いずれの企業も社会貢献をベースとしており、建設業も本来事業による社会貢献だけでは社会に受け入れられない。先進的に取り組んでいるこのアワードを来年度につなげてほしい」と述べました。選定委員を代表してソーシャルテクニカの田村裕美代表理事が各活動を講評し、中央大学理工学研究所平野廣和研究室の事例は「社会的な意義や効果は大きく、コスト面でも非常に優れている」、飛島建設・オリエンタルコンサルタンツ特定事業共同企業体の活動は「地域と企業が連携した取り組みで相互にメリットがある」、ミカミの企画は「子育て中の女性の社会参加という課題は公共性が高く、自社物件を活用することから実現可能性も高い」、まちみとらボについて「住民参加により空き地を芝生化して運用するアイデアは空洞化した中心市街地を活性化する新たな方策」と評価しました。

その後、中央大学の平野廣和教授、飛島建設の田村琢之技術研究所環境・エネルギーグループ課長、ミカミの黒崎健司東北支店課長補佐、まちみとらボの三上靖彦代表取締役から表彰状と副賞が手渡されました。受賞者を代表して田村氏は「あらゆる活動はソーシャルビジネスに関わると認識している。CNCPの活動がより一層発展すると強く感じている」と謝辞を述べました。

プレゼンテーションでは各代表者が受賞活動の概要を紹介しました。中央大学の平野教授は、大規模地震で破損、破壊が見られる貯水槽の被害を防ぐため、貯水槽内部に8の字型のパネルを組み立てることで液体の揺れを減衰させて耐震性を向上させたことを解説し、「研究を進めて、液体輸送車両に対応したタンクもつくりたい」と語りました。飛島建設の田村氏は岐阜県中津川市内で農業用水路を発電用の導水路として活用した小水力発電の事例について紹介し、地元関係者と協議を重ね、水路の歴史的美観を残しつつ再生したことで、発電所・水路の完成時は地元主催のお披露目会も開かれ、「民間事業として発電事業をやりながらも、地域の皆様への貢献を実感できた」と振り返りました。

ミカミの黒崎氏は、茨城県水戸市の旧社屋のリノベーションを社員が手掛け、事業実施、運営することで主婦向けのコミュニティをつくり潜在的な待機児童や母親の就業環境不足などの課題解決を図る構想を紹介し、「地域貢献のため民間のストックを利用しつつ、収益につなげることも目指したプランを検討した」と話しました。まちみとらボの三上氏は、2019年度に完成予定の水戸市新市民会館の事業効果を引き出すため、周辺の空き地や駐車場を借り上げて住民参加で芝生化する事業企画を解説し、空き店舗対策や商店街の活性化につなげるため「2019年度から自走できる事業展開を目指し、地域の皆がよいなと共感できる地区づくりをしたい」と意気込みを語りました。

式典終了後、第2部として東京文化財研究所の北河大次郎保存科学研究センター近代文化遺産研究室長に「シビルの原点とその系譜」と題して記念講演をしていただきました。その後、懇親会が開かれ、出席者が交流を深めました。

筆者 日刊建設通信新聞社 谷戸雄紀

